□ツュンベリー来日200年記念行事について　C.P. Thunberg (1743-1828) が長崎の出島に着いたのは1775年8月14日で，オランダ商館長 Feith に随行の医師として翌年4月27日から5月25日まで約1ヶ月江戸に滞在し，同年12月3日長崎を出帆し，1779年故国スウェーデンに帰った。彼の来日200年を記念して，スウェーデン大使館と日本植物学会主催で，一連の記念行事が5月17日から25日まで行われた。東京では5月17日に記念式典および講演会（朝日新聞社講堂），5月19日に分類学シンポジウム（国立科学博物館講堂）があった。5月21日に京都において森林生態学シンポジウム（京都会館），5月23日に長崎において記念式典と講演会（長崎県立図書館講堂）があった。なお東京大学総合研究資料館においてツュンベリー関係の記念展示会を5月19日—25日の間開催した。これら一連の記念行事のために，ウプサラ大学植物学教授ヘッドベリ (O. Hedberg) 氏，ストックホルム大学林学教授タム (C.O. Tamm) 氏夫妻，同助教授リンダー (S. Linder) 氏，スウェーデン国立自然誌博物館植物部長ノルデンスタム (B. Nordenstam) 氏が5月16日来日し，貴重な展示品を持参された。なおこれらすべての行事にウーデバル (B. Odevall) スウェーデン大使が同行されあいさつがあった。

本誌表紙カットのメタルはスウェーデン王立アカデミーで今年記念のため複製されたものである。なお本行事の Proceedings の出版が日本側で予定されている。

これとは別に蘭学資料研究会（会長緒方富雄博士）は第18回大会を8月18日，19日に長崎で行い，18日の午前をシーボルト江戸参府150年，ツュンベリー江戸参府200年記念式，記念講演会（共に NBC ホール）にあてた。

井上書店はツュンベリー来日200年を記念して本年の春，Thunberg: Flora Iaponica と伊藤圭介：泰西本草名疏を複刻した。　（木村陽二郎）

□H.O. Schwab & W. Stephan: **Die Welt der Orchideen auf Briefmarken** A5版 pp. 80, pls. 23, H.O. Schwab Verlag, Frankfurt (1975), $2。郵便切手には色々なものが載るが，これはランの切手になった種類を網羅したもので，切手の種類は1974年末までに発行された，416種の全部を写真版として添え，誤植，同定の間違いを直して，軽い記述を附した目録もついている。発行回数151回，97属に及ぶからおどろく。1975年4月のフランクフルトで開かれた第8回世界蘭会議の機会に出版された。　（前川文夫）

□John S. Glasby: **Encyclopedia of the Alkaloids** I, II. Plenum Publishing Corporation, 227 West 17th Street, New York, N.Y. 10011, May 1975, $102. 本書は，今までに知られた3,000以上のアルカロイドをA，B，C順に配列し，分子式，構造式（立体式を含む），原植物，物理的性質，化学的反応及び生理作用の極く簡単な記載，原報の所在（著者及び文献）の順に包含しておりアルカロイドに別名あるものは一々挙げてある。内容を一覧すると記事は正確であり，アルカロイドに関心ある人の机辺に備えるべき良書として，推薦できる。　（刈米達夫）